群馬県立渋川青翠高等学校学校評価一覧表①（令和3年度版）

（様式1）

羅 針 盤			令和3年度方策		第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目	自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動（授業等）を行っていますか。	① 総合学科高校として特色あるキャリア教育活動に満足している生徒が80%以上である。	B	A	・4系列の履修内容を各系列のコースごとに検討するとともに、シミュレーションシートの評価・改善を行うことで、それぞれの系列の特色を充実させ、魅力化を図る。それを、主体的・対話的に学びにつなげるようにする。 ・生徒それぞれの職業観を育成するために、社会人など外部の方の講演会を行ったり、直接対話する機会を設けたりする。	B	A	・4系列の履修内容の検討、シミュレーションシートの評価・改善を行い、各系列の特色を生かし、魅力化を更に図る。インターンシップを計画してもなかなか実施できる状況にならないが、1学年は全員、2年生は希望者が参加できるような計画は継続して立てる。一人一台の学習用端末を有効利用し、授業改善の推進とリモートでの授業実施への対応がさらに充実するよう研修を行う。		
		② 学校の課外活動に意欲的に取り組んでいると感じている生徒が75%以上である。	C	C	・各学年行事において、生徒それぞれに目標を設定させるなど、それぞれの行事との関わりを深めさせることで、達成感や充実感を持つ指導を行う。	C	C	・生徒一人一人に自分の目標を設定させ、各行事に「関わろう」とする意識が持てるような指導を通して、取り組み方を考えさせ、達成感・充実感へとつなげる。		
	2 生徒の主体的な学びを引き出す「総合的な探求の時間」（総合研究）を行っていますか。	③ 一連の学習活動（課題設定、調査・研究、まとめ、発表等）を主体的な学びであると自己評価している生徒が80%以上である。	D	A	・総合研究ガイダンスの指導用ワークシートを刷新し、自ら設定した課題解決に向けたテーマに沿った「研究」が3年間を通してできるよう、導入時の指導の充実を図る。 ・相互に研究成果を発表させることで個々の生徒に刺激を与え、主体的な学びに対する意欲を喚起する。	D	A	・生徒の主体的な活動と主体的な学習に基づいて課題解決ができるよう支援していく。そのために、まず、2年次と3年次当初のガイダンスをさらに充実させるとともに、総合研究発表会の参加を通して2年生に次年度の総合研究への目標を持たせる。		
		④ 学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が85%以上である。	D	A	・授業における規律を徹底させるとともに、個々の教職員が授業内容を充実させる。そのために、校内研修等により教職員それぞれが主体的・対話的に深い学びを生徒ができるような授業改善を心掛けるとともに、学び直しができるような機会も設けるようにする。	D	A	・各授業を学び直しを積極的に取り入れることで、生徒の理解度を高める。また、生徒の学習習慣を確立させるための工夫をそれぞれの授業で取り組むとともに、効果的な指導方法について校内研修を実施する。		
		⑤ 目標の資格取得を果たした生徒が60%以上である。	A	D	・各種検定の受験を促すとともに、検定資格（漢検・数検・英検を含む）の取得に向けた指導を計画的に行うことで合格率を向上させるようにする。また、各種検定合格者を掲示することで、多くの生徒の意識を高められるようにする。	A	C	・進路目標と系列の選択を適切に行うことで自分に必要な資格を認識させる。個別指導や補習を行うことで、各種検定取得に對しての取り組みを支える。		
II 生徒の主体的な学習指導を行っていますか。	3 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	④ 学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が85%以上である。	A	—	・校務運営委員会・職員会議・学年会議や朝会等で生徒の情報の共有化を図るとともに、定期会議の場に限らず日頃から教職員間の連携に努める。	A	—	・引き続き、生徒の活動をきめ細かく観察し、良い変化についても情報共有する。		
		⑤ 目標の資格取得を果たした生徒が60%以上である。	B	B	・感染症対策を講じた上で、主体的・合理的・効果的・効率的な活動を行う。活動内容や指導方法などの改善に取り組み、本校部活動指導方針に基づいた活動を行う。	B	B	・部活動顧問及び学級担任間との連携を図り、途中退部生徒を減らせるように努める。		
	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に1～2回程度行っている。	B	A	・服装頭髪の指導を中心に身だしなみ指導を徹底し、生徒の規範意識の向上に努める。教職員が一丸となって、朝の登校時指導、ホームルーム、授業において、共通理解のもと指導をする。	B	A	・今年度制服の着崩しを防止することを重点的に行い、改善されつつあり、学校全体が落ち着いた雰囲気になった。今後も継続的に、毅然とした態度で指導していきたい。		
		⑦ 部活動等への加入率が70%以上である。	D	—	・朝読書（学習）の充実を図ることで、遅刻者数を減少させる。遅刻の多い生徒には、保護者へ連絡するなど、家庭と連携して、基本的な生活習慣を身に付けさせる。	D	—	・今年度は遅刻指導を重点的に行っていることもあり、時間を守る意識は向上しているように感じる。引き続き、学年と連携して指導していきたい。		
		⑧ 基本的生活習慣を身に付け、服装頭髪など身だしなみがしっかりしている生徒が90%以上である。	A	A	・いじめ問題については、「法」に基づいて組織的に対応する。生活アンケートや学年・分掌及び養護教諭・SCと情報共有をして、いじめの未然防止を進め、発見したいじめには迅速に対応して、いじめの根絶を図る。	A	A	・職員会議等で、教職員のいじめに対する意識向上を図った。いじめの認知に関する理解が深まったことで、早期発見・早期対応ができていた。また、年3回の学校生活アンケートの他に、毎月の簡易的なアンケートを開始し、SOSを出しやすい環境を整えた。		
5 生徒は規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 家庭と連携を図ることで、生徒の遅刻者数は、1日平均1%以内である。	C	A	・各学年行事だけでなく、定期テストの振り返り時間を設定し、学校生活への取り組みについて考える機会を設け、自己理解と成長を促す指導を行う。	B	B	・生徒アンケートでは進路について真剣に考えている生徒が92%、取り組んでいる生徒が67%となっており、昨年度に比べ改善が進んでいる。職員アンケートでも取り組んでいる生徒が76%と改善に実感が伴ってきている。3年間の総合的な探究の時間の計画を見直し、職員間で共有することで生徒の実情に即したキャリア教育を実現していく。			
	⑩ いじめの未然防止や早期発見に努めて、いじめの解消率が90%以上である。	C	A	・進路希望調査について、2学年の第3回と3学年は家庭に持ち帰り、保護者の確認の上で提出させる。また、各学年での三者面談で、進路希望について必ず確認する。	B	A	・保護者アンケートでは「子どもの進路志向について理解している」の回答が89%であるが、職員アンケートでは71%と低くなっている。保護者・教職員間の共通理解を図るために、3年間の進路指導計画により一層の工夫が必要である。			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導を行っていますか。	6 計画的な指導を行っていますか。	⑪ 「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	C	A	・「進路だより」を毎月発行し、本校卒業生の進路状況や学習状況、入試の動向や求人状況など、進路関連情報をまとめて提供する。 ・発行の際は一斉メールで保護者に連絡し、印刷物のほか学校Webページにも掲載する。	B	—	・今後も継続して発行していくためには、より緻密な年間編集計画を立て、多くの担当者が臨機応変に最新の進路情報を収集し、発信できるような体制づくりをしていく必要がある。		
		⑫ 生徒の将来の志望について理解している保護者が80%以上である。	C	A	・「進路だより」を毎月発行し、本校卒業生の進路状況や学習状況、入試の動向や求人状況など、進路関連情報をまとめて提供する。 ・発行の際は一斉メールで保護者に連絡し、印刷物のほか学校Webページにも掲載する。	B	A	・必要に応じて会議を実施し、情報共有を図った。回覧形式での情報共有も頻繁に行い、係として組織の強化も図れた。次年度は、月に一度の定例会議を設定し、毎月の相談件数や学年会議の内容把握など、積極的に開催していきたい。		
	7 適切な進路情報を提供していますか。	⑬ 「進路だより」を定期的（年間12回）に発行している。	A	—	・原則「教育相談通信」・スクールカウンセラー通信を月に1回発行した。また、2学期からは、係で輪番制で発行したため、内容の幅が広がり、効果的な情報発信ができた。	A	—	・2学期からは、生徒情報カードの見直しを図り、迅速かつ円滑に情報共有する仕組みに変更した。また、担任や学年だけでなく、係としても問題を抱えた生徒への面談やSC利用など、早期に関わり、対応をしていく必要性を感じた。次年度に向けて対応策を検討したい。		
V 日常的な相談活動が充実していますか。	8 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑭ 定例会議を月1回以上開催する。	C	—	・早期の情報集約と適切な相談業務に当たる。特に、既存の生徒情報カードを活用し情報共有を図る。また、必要な場合は、外部機関との連携を図る。	D	—	・必要に応じて会議を実施し、情報共有を図った。回覧形式での情報共有も頻繁に行い、係として組織の強化も図れた。次年度は、月に一度の定例会議を設定し、毎月の相談件数や学年会議の内容把握など、積極的に開催していきたい。		
		⑮ 教育相談通信・スクールカウンセラー通信を月に1回発行する。	A	—	・原則「教育相談通信」・スクールカウンセラー通信を月に1回発行した。また、2学期からは、係で輪番制で発行したため、内容の幅が広がり、効果的な情報発信ができた。	A	—	・2学期からは、生徒情報カードの見直しを図り、迅速かつ円滑に情報共有する仕組みに変更した。また、担任や学年だけでなく、係としても問題を抱えた生徒への面談やSC利用など、早期に関わり、対応をしていく必要性を感じた。次年度に向けて対応策を検討したい。		
	⑯ 転送学者数を前年度より減少させる。	D	—	・早期の情報集約と適切な相談業務に当たる。特に、既存の生徒情報カードを活用し情報共有を図る。また、必要な場合は、外部機関との連携を図る。	D	—	・必要に応じて会議を実施し、情報共有を図った。回覧形式での情報共有も頻繁に行い、係として組織の強化も図れた。次年度は、月に一度の定例会議を設定し、毎月の相談件数や学年会議の内容把握など、積極的に開催していきたい。			
VI 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰ 学校の教育活動を地域及び関係機関の方々に理解してもらうために「学校公開」を年3回実施している。	B	—	・Webページを随時更新し、地域や関係機関に対して速やかに情報を発信している。 ・体験学習会では、オンラインで実施し、PRする動画を作成し配信。更に、学校説明会を通して本校の特徴や魅力を伝えることに努めていく。	B	—	・「体験学習会」では、オンラインで系列や学科紹介の動画を配信し魅力を伝えることに努めた。今後も、この機会を活用し更に特色ある学校活動を発信していきたい。今年度は、保護者向けの授業参観を実施できなかったため、次年度は実施し、学習活動への理解を深めてもらう機会としたい。Webページを随時更新し、情報発信を推進するとともに、市や市の広報等との連携・協力を深める。		
		⑱ PTA総会、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が60%以上である。	A	—	・PTAの諸活動（総会等開催、諸会議、生活指導、研修会、学校行事への参加など）の改善を図り、充実した内容の実施を進める。 ・PTA研修広報係を中心としてPTA新聞を発行し、本校の諸活動や生徒の様子を伝える。また、Webページやオクレンジャーの活用を進め、参加しやすい環境に努める。	A	—	・PTA諸行事が中止となり、充実した内容の実施を進めることができなかった。総会の議決やPTA上部団体の行事の伝達については、オクレンジャーやオンラインを活用した。そんな中、研修会の開催やPTA新聞の発行については、PTA役員の協力を得て実施することができた。以降も学校への協力や理解が得られるよう努めていきたい。		
	10 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑲ 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施している。	B	—	・各分野において活躍する社会人や卒業生を講師として招き、産業社会と人間や総合的な探求の時間の中で講話を実施する。	A	—	・社会人講師を招き、校内オンラインを活用したキャリア講演会を実施した。今年度実施できなかった卒業生講話や記念講演会については、オンライン等を活用した実施を含めて計画したい。		
VII 教育デジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ ICTを活用した授業に満足している生徒が75%以上である。	A	B	・各教科や分掌で、効果的なICTの活用校内や校外での実践例を研修等で共有できるようにするとともに、ICTの環境整備に努める。	A	C	・機器等に関しては整ってきているので、それらを効果的に活用できるような個々の教員で、又は、全体で研修に取り組む。特に、校内や校外での実践例を共有できるように整備する。		
		12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑ オンラインによるアンケートを3回以上実施している。	B	—	・アンケートや参加の集約等のオンラインでの実施を各分掌や学年の多くの職員が携わることで、さらにオンラインでできることを確認する。	A	—	・アンケートや行事の参加の集約等をオンラインで実施しているため、更に多くの場面で活用し誰もが携われるようにする。	

教務部・進路指導部

生徒指導部

進路指導部

教育相談係

渉外部・教務部